

愛知県におけるCKD普及啓発活動

愛知県代表 丸山 彰一

2022年12月版

World Kidney Program 2022
世界腎臓デー

2022.03.06.13.20.27.
毎週日曜日

3月第2木曜日(2022年3月10日)の「世界腎臓デー」に
合わせ、腎臓の働きから腎臓病の予防、透析治療の最新
線にいたるまで、分かりやすく豊富なセミナーを計4日間
にわたってオンライン配信します。

大会長 / 丸山 彰一 (名古屋大学大学院医学系研究科 病態内科学講座 腎臓内科 教授)
事務局 / 備行会グループ 株式会社名古屋メディアカルマネジメント

参加はこちらから!

2022年3月6日,13日, 20日, 27日 (日)

Webinarにて日本および海外(インドネシア、
中国)をつないで保存期から透析に至るまで
腎臓疾患について一般の方向けの啓蒙活動

腎疾患対策検討会 in 中川
～中川エリアにおける今後の腎臓疾患対策について～

日時 2022年6月25日(土) 17:00～18:35

会場 TKPガーデンシティPREMIUM名古屋新幹線口パンケットホール7A
※Web参加については3枚目に登録方法の記載がございます。

Program

Opening Remarks 17:00～17:05	松本 幸三 先生 松本ファミリークリニック 院長
第1部	座長 石川 敦子 先生 野村医院 院長
特別講演 17:05～17:50	演者 丸山 彰一 先生 名古屋大学大学院医学系研究科 腎臓内科学 教授 『CKD診療における新たな展開』
	演者 高井 奈美 先生 名古屋大学医学部附属病院 看護部 慢性疾患看護専門看護師 『(仮)慢性腎臓病患者の療養指導の実際』
第2部	座長 早瀬 修平 先生 はやせ希冀クリニック 院長
ディスカッション 17:50～18:30	コメンテーター 稲熊 大城 先生 藤田医科大学ばなね病院 副院長 内科学講座 主任教授 春日 弘毅 先生 名古屋共立病院 副院長 腎臓内科部長 遠藤 信英 先生 日本赤十字社豊知医療センター名古屋第一病院腎臓内科副部長 『新規透析導入減少に向けて』
Closing Remarks 18:30～18:35	松本 幸三 先生 松本ファミリークリニック 院長 ※当日は軽食をご用意しております

申請予定単位*医師会生涯教育講座1単位(カリキュラムコード73 慢性疾患・複合疾患の管理)
当講演会で取得したご所属・ご氏名・メールアドレスは、弊社による医薬品および医学・薬学に関する情報提供並びに
参加者に関するご確認のために利用させていただきます。ご了承ください。
また、当該情報は弊社から主催の名古屋市中川区医師会に開示させていただきます。ご同意いただけるようでしたらご参加ください。

DIAMOND Project
Collaborated by JKA & KRC

日本腎臓病協会と協和キリン「腎臓病の啓発活動に関する連携協定」を締結
NPO法人日本腎臓病協会と協和キリン株式会社は、日本腎臓病協会が掲げている事業の一つである「腎
臓病対策の普及啓発・診療体制の整備」に基づき、腎臓病の疾患啓発活動に関する連携協定を2019年
5月16日に締結しました。この締結に基づいた活動は、DIAMOND Projectとして展開しております。
共催：特定非営利活動法人 日本腎臓病協会/名古屋市中川区医師会/協和キリン株式会社
後援：NPO法人 日本腎臓病協会
NPO法人 名古屋腎臓病克服総合フォーラム
厚生労働科学研究費補助金「慢性腎臓病 (CKD) に対する全国での普及啓発の推進、
地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献」

2022年6月25日(土)

腎臓病対策の普及啓発・診療体制の整備を目的
とした幅広い専門職を対象とした地区別の地域
医療への貢献活動

腎臓から考える健康ライフセミナー

～新型コロナ時代の腎臓病対策～

- 講演1** 名古屋大学医学部附属病院 血液浄化部 佐藤 由香 先生
- 講演2** 愛知医科大学・腎臓・リウマチ膠原病内科 石本 卓嗣 先生
- 講演3** 衆済会 増子記念病院 臨床栄養課 朝倉 洋平 先生
- 講演4** 衆済会 増子記念病院 腎臓内科 安田 香 先生
- コーディネーター** 名古屋大学大学院 医学系研究科・腎臓内科 丸山 彰一 先生

出席者

いまや国民病と位置付けられるほど、患者数が増えている腎臓病。自覚症状が乏しく、知らず知らずのうちに進行するうえ、腎臓は一度機能が失われると再生できません。そのため早い段階で、異常を見つけることが大切です。3月第2木曜日の「世界腎臓デー」に合わせて開催される健康ライフセミナーは、今年で12回目。5名の講師を迎え、腎臓の働きから腎臓病の予防・治療の最新線まで分かりやすく解説していただきました。



広告特集 企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

成人 8 人に 1 人が慢性腎臓病

健康診断などで、慢性腎臓病を指摘される方が増えています。自覚症状がないまま、じわじわと進行していくため、発見が遅れがちな病気のひとつです。腎臓は、健康状態を保つうえで重要な働きを担っています。「もっと早く治療を始めていれば……」と後悔しないためにも、慢性腎臓病の正しい知識を身につけましょう。お二人の専門医に、原因や対策法などを語っていただきました。あなたの腎臓は大丈夫ですか。

慢性腎臓病を予防・治療しよう 将来の透析導入と 心筋梗塞などの発症を防ぐために



食生活の見直しと
適度な運動で
かけがえのないヘルシーライフ

「腎臓病啓発」対談



腎臓病の早期発見と治療の重要性を伝える取り組みとして、国際腎臓学会と腎臓病国際協議会によって提唱されたのが「世界腎臓デー」。毎年3月の第2木曜日に制定されました。世界100カ国以上において、さまざまな啓発キャンペーンが行われます。

2022年3月26日（土）

朝日新聞の紙面をかりて、慢性腎臓病の予防と治療を一般の方を対象に広くお知らせするため、**食事療法、運動療法の専門家と共に対談と座談会**を行った。



藤田医科大学 医学部 腎臓内科学 教授

坪井 直毅先生

PROFILE 幅広い臨床経験を持つ名古屋大学医学部附属、ハーバード大学ブリアンソン・ワグマン医療院、名古屋大学附属病院腎臓科、診療部長を経て2020年より現職。専門は急性腎臓病と慢性腎臓病。著書『慢性腎臓病の最新治療』、日本腎臓学会監修、腎臓病診療ガイドライン。

「症状が乏しく、気がついたら
「透析寸前」も珍しくありません

「透析人口は約34万人、依然として増加の傾向」
丸山 近年、「慢性腎臓病（CKD）」がクローズアップされています。これは病名ではなく、さまざまな腎臓病の総称です。①たんぱく尿がある②腎臓の働きが健康人の60%以下になるのいずれかが3か月以上続く状態を示します。注目される理由は、2つあります。ひとつは重症のCKDにまで進行すると、腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）が必要になること、日本では透析人口が増加の一途をたどっており、すでに34万人（2020年末）を超過しています。医療負担は1人当たり年間約500万円、医療全体の公的医療費は年間約1.6兆円に及びます。もうひとつは、心筋梗塞や脳卒中などの発症リスクが約3倍高くなることです。慢性腎臓病の患者さんは国内では約1330万人、成人8人に1人が該当します。にもかかわらず、治療を受けている方はごく一部です。多くの方が、「自身の慢性腎臓病に気づいていないのが現状です」。

坪井 腎臓病のほとんどは、自覚症状がないまま進行します。末期腎不全の一手前で、腎臓内科を初めて受診される方も珍しくありません。腎臓は、水分や塩分、老廃物を尿として体外に排泄してい

ます。それだけでなく血圧をコントロールしたり、造血ホルモンを産生したり、骨を丈夫にするビタミンDを活性化するなど、役割を担っています。腎機能が低下すると、こうした働きに障害が起こります。その結果、たんぱく尿や血尿、食欲不振、むくみ、貧血、高血圧などをきたします。慢性腎臓病はある程度まで進行すると、腎機能の回復は見込めません。しかし早期治療を開始すれば、腎機能の低下を防いだり、進行を遅らせることは可能です。

丸山 新しい透析を始められた患者さんには、腎臓病の原因疾患は、最も多い糖尿病、次いで高血圧です。高血圧は多くの場合、腎臓病の原因があります。腎臓が弱くなると血圧が上がり、血管が傷んで動脈硬化が進行します。そして高血圧になると、腎機能がますます低下するという悪循環が生じます。糖尿病や高血圧を治療中の方は、腎臓のためにも薬を正しく服用しましょう。



「新薬が登場。慢性腎臓病の治療が大きく前進しています」



名古屋大学大学院 医学系研究科 腎臓内科学 教授

丸山 彰一先生

PROFILE 腎臓病・透析治療/名古屋大学医学部附属、名古屋大学附属病院腎臓科、診療部長を経て、2016年より現職。専門は透析・移植医療、日本腎臓学会、アメリカ腎臓学会、国際腎臓学会などに所属。